



114
A3073



とノ一

千八百七十七年四月十四日刊
東京タカムス新聞抄譯

大
左
十一
寄
贈
月

墨銀ノ弊害ヲ論ス

近頃横濱商法會議ガ或ル仲間ヨリ二三ノ防弊
論ヲ受取りシテ觀ルニ其論旨タルヤ甚タ不條
理ニシテ其會議所ノタメニ論スル所ノモハ
却テ會議所ヲ害スルノ姿アリテ恰モ會議所ガ
其好意ヲ辞スルニ如カザルノ状アリシ右仲間
ノ一人タル「ジヤツパン」ヘラルト「記者ハ願ヒ思
カヲ竭シテ墨銀ガ商務ノ作為上ニ於テ何タル



弊害ヲモナサハル。トテ証明セント努メタリ然
レトモ我輩ヲ以テ之ヲ觀レバ記者ガ發論セシ
理由ハ目下推究ノ問題ニ取リテハ不條理千萬
ニシテ詰リ自ラ自己ノ非難ナスモノ、如シ即
チ其言ニ云ク世上往々墨銀ノ弊害ニ付多少ノ
苦情ヲ鳴ラスモノアレドモ其苦情ノ全ク妄想
ニ出テタルハ世人ノ明判スル所ニシテ別ニ謀
々スルヲ待タス故ニ彼ノ高法會議所カ先回ノ
會議ニ於テ充分既問題ヲ論悉セザリシモ畢竟
此ボ、トニ實驗アル諸實ニ對シ之ヲ明弁ス

ハ無用ノ論柄ニ屬スルヲ以テナリト又其他
三輩ヨリモ(如斯沃新シタル語氣コソナケレ)同
一ノ論議ヲ提出シタリキ
抑モ此論題ヲ推究スベキ、動議ハ該會議所ノ
三月二日ノ大會議、キ社員ノ一人タル或ル談
者ガ發言セシモノニテ當時出席ノ各社員ハ之
ヲ新論スベキ預備ナキユヘ更ニ此一趣旨ヲ討
論スルガタメ臨時會議ヲ開クベシト述べタル
ニアラズヤ然ラハ則チ是時ニ於テ會議所ガ之
ヲ無用ト見做シタリト何分信難キ、説ナラ

ガヤ察スル^ル処會議所ノ是迄ノ先轍ニ忸レテ敢
テ今回ノ會議ノ所置ニ失望ヲ抱カザル人ハ會
議所ガ何程音繁ノ問題ヲ發議スレバトテ決シ
テ夫レガタメ幾分カノ效用ヲ生セザル^トハ万
々承知セシニ疑ナシ固ヨリ況^ニ臨時會議ノ日
ニ於テ社負カ同一ノ感ヲ起スヤ否ハ我輩ノ全
日ニ明言シ難キ所ナリシモ兔ニ角此會議ノ宣
日ハ已ニ日々廣告アリシ^上甘テハ我輩ノ見ル
処ニテハ一人ノ社負ヘ面目ヲ與フルガタメ高
人仲間ノ十五人ヲシテ貴重ノ時限ノ一時間

費サシムルノ状アルベキニ似タリ
古語ニ曰ク凡ノ百般ノ事柄ニ於テ失錯ノ明白
ナル又不條理不公平ノ顯然タル之レヨリ甚キ
モノアラザルモ却テ之ヲ可トシ之ヲ善トシテ
防論ヲ受^ルトナシトセズト想フニ今日ノ唱^コ
ル^ル処ノ貨幣ノ文字ノ真字義ニ就キテ之ヲ云ヘ
バ墨銀ハ逆モ貨幣トハ思考シカタキモノナリ
其故何ゾヤ墨銀ハ貨幣タル第一ノ本分ノ性質
即チ時ノ古今ニ揭ラス場所ノ從此ヲ問ハス何
ヲシテモ之ヲ請込マシムルノ性質アラザルナ

リ又千種一物タル程ノ精密ノ鑄造ニテ何人ニ
モ一見其真物タルヲ承諾セシ之レガ贋物ヲ
造作スル能ハザラシムルノモ、アラザルナリ
今試ニ或ル銀行ニ赴キ百弗ノ墨銀ヲ聚メ来リ
之ヲ近傍ニアル為換座ニ裔スベシ必ス支那人
仲買者ハ其内ノ拾弗乃至拾五弗ヲ抽出シテ其
不良ヲ語ルベシ乍去斯ク不良ヲ示セバトテ敢
テ之ヲ收取セザルニアラズ恐ク九拾「セント」ヨ
リ九拾七乃至九拾八「セント」ノ相場ナレバ之ヲ
引取ルベシ是ガノ盜賊ノ所為(是レ支那人ノ欽

とノ四

行者ノ詭計モアレド又墨銀ニモ固有ノ欠点
ルニ由ルハ墨銀ノ流通ノ為ニ生スルノ害中ノ
些々タルモノニテ其他尚枚挙スルニ暇アラザ
ルモノアリ然レトモ或論者ハ夫ガノ苦情ヲ唱
フルハ無據ノ妄説ト云ヘルアリ
夫レ斯クノ如キ状勢アリ故ニ墨銀ハ其流通ノ
際到處トシテ不適當ノ所作(好シヤ不正ニア
ラザルニセヨ)即チ貨幣ノ本分職務ト全ク逕庭
シタル所為ニ赴カザルハナシ彼ノ支那ノ山東
ノ如キ殊ニ是ガノ作為ノタメニ墨銀ノ輸入サ

ル、場所且其他墨銀ノ幾分カ輸入アル所ニ於
テハ墨銀ノ量ヲ比較シ其重量ナルモノハ之ヲ
溶解シ輕量ヲモノハ之ヲ支那ノ銀行者ガ輸出
スベシト見込マレ場所へ輸送セルアリ我輩英
國ノ百家全書ヲ閱スルニ貨幣ノ名ハ其重量目
ヲ明示セル極印アル金屬ニ出タルナリト今我
輩ハ日本ニ在リテ唯便宜ノ方ノミニ付テ云
ハ、貨幣ノ此原ニ復シタルノ状態アルノ欲ハ
ザルベカラザルモノ、如シ何トナレバ我輩ハ
他人ヨリ墨銀ヲ受取ルルハ其表面高ニテ之ヲ

と、五

受ルモ他人へ之ヲ渡スルハ其真價即ニ支那人
ノ銀行者ガ決定スルノ價直ニテ手放サレラ
得サレバナリ(尤モ支那人ノ銀行者ガ見込ム程
ノ押取ニ至ラヌニセヨ) 輒近來國ノ銀價取調
掛へ或ル有識者ヨリ送付セルノ一書アリ左ニ
其要略ヲ採録スベシ
元ノ貨幣ナルモノハ通商作為ノ要具又カ役所
有物ノ度量其他交換媒物トシテハ必ス現實ノ
價格ナカルベカラズ若シ或ル通貨ノ本分ノ性
ヲ(些少ニセヨ) 欲クテアルバ以テ交換媒物トナ

スベカラズ要之ニ貨幣ハ取モ直サス地金トシ
テ若干ノ量目アル旨ヲ明示セシ一証物タルニ
過キズ固ヨリ或ル政府ガ他國ノ政府ヨリノ貨
幣ヲ量目ニテ引取ル^トアラバ其ナス所ノ所為
ハ随分道理アルベキ^トナカラ万一自他互ニ如
此^トナスニ至ラバ其煩勞堪ユベカラズシテ人氏
ニトリ莫ニ不良ノ狀況ト云ハザルベカラズ抑
モ貨幣ハ寸分ラ差ハザル價格ノ肖像タルベキ
モノニシテ假令一弗ト銘印スル上ハ文ス
一弗文ノ價格ヲ有ス^トキ苦ナリ故ニ合法貨幣

トハ何レノ所ニ限ラズ又何レノ時ニ拘ラス他
ノ貨幣ヨリモ貴重サル、ノモノニテ何人モ異
議ナク受込ムベキ性質アルモノヲ云フ若シ否
レバ決シテ通商互市ノ需用ニ供シ内外交通ノ
用務ヲナス能ハザルナリ夫レ如斯ナレバ則チ
貨幣ノ法貨タルノカアルハ貨幣ヲ諸物品ヨリ
貴重ナラシムル^ル知^ルモノアルニ由レルナレバ
モサレバ其貨幣ニシテ其力ノ欠損シ又不換不
易ノ物ヲ較スル^ル度量ナキ片ハ其通商ノ作為
ニ用ヒラル、ノ稀^レニ又價格ノ度量トシテノ

スベカラズ要之ニトス
名祐ヲ失スルモ亦然ルベキノ理ナリト以上ノ
論説ハ曾テ日本ニ付キ思想ヲ思ラシタルモノ
ニアラズ又曾テ日本ノタメニ起草シタルモノ
ニアラサレトモ不思哉ニ其論旨ハ日本ノ状態
ヲ抽出スルニ足レリ我輩モ勿論一弗ハ百セント
トニ代ルモノト信用シ居タリシニ彼ノ支那人
ノ銀行者ハ一弗ノ平均相場ハ九拾「セント」ヨリ
九拾壹「セント」迄ノモノタルヲ話リ又各記者
モ確定ノ文字ヲ以テ距今十五年乃至二十年以
降斯ル不都合状態ニ赴クノ方法ヲ可トシ加之

と、い、え、ら

通高上ノ衆智ヲ聚メタル高法會後所モ之ヲ許
允セル上ハ我輩ハ大方ノ諸人ニ向テ是迄我輩
ガ一弗ヲ百「セント」ト思ヒシハ全ク我ナカラ非
常ノ讀見ニテアリシト謝スルノ外亦他ナカレ
ビシ

